

お数珠のかけかた

お数珠はもともと、お経やお題目をあげる時にその数をかぞえる法具でした。今ではお経やお題目を唱えたり、仏さまを礼拝する時に手にかけてお参りします。

お数珠は持っているだけで功德があるとされ、普通108の珠からできています。これは、108の煩惱を退散・消滅させる功德があるからだと言われていますが、珠の数はこのほかにも、108の10倍の1080のものから1/6の18のものまでさまざまあります。

形式については宗派によって若干の違いがありますので、求められる時に確認したほうがよいでしょう。また、お数珠のかけかたも宗派によって異なりますので、代表的な宗派について紹介します。

天台宗



臨濟宗・曹洞宗



浄土宗



浄土真宗本願寺派



真宗大谷派



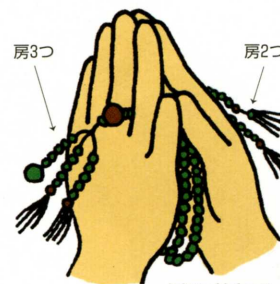
日蓮宗



真言宗



房3つ



祈願(祈るとき)

合掌のしかた

合掌は仏さまを尊び、供養する気持ちをあらわしたものです。一説によれば、右手は仏さまを表し、左手は私たち凡夫を表すと言います。手を合わせることで、仏さまの境地に私たちが近づけるというのです。いずれにせよ、掌を

合わせることによって心が落ちつき、精神が安定するのではないのでしょうか。

合掌のしかたは、まず、指と指の間を離さずくっつけて、掌をピッタリと合わせます。そして、位置としては胸の前に、胸にはつけないで少し前に出します。

掌の角度は45度くらい。肘は張らず、脇も力を入れて締める必要はありません。肩の力を抜くようにすればよいでしょう。厳密に言えば合掌にもいくつかの形があるのですが、この形がもっとも代表的なものです。